

燈 明 台



燈明台（上部には火袋等がある）



大正又は昭和初期の写真（絵葉書）

安政 6 年（1859 年）に二代目広重が描いた「下総成田山境内図」には「魚河岸」と書かれた大提灯が描かれていた。しかし上の写真（絵葉書）には魚河岸の提灯が無い。

絵葉書の燈明台を良く見ると右側には梯子があり人が乗っているのが見えます。

昔は燈明台に梯子をかけて火袋に灯油を注ぎ明りを灯していたようです。



東日本大震災により火袋から上が倒壊



市川宗家の歌舞伎役者の名が

「燈明台」と呼ばれる石の灯籠。明治 27 年（1894）に内陣十六講石工燈明講により奉納された。高さ 10 メートル。周囲には建立に協力した市川團十郎、市川左團次、市川染五郎など当時の市川宗家の歌舞伎俳優の名が多く彫られている。 九代目市川團十郎 佐立 七次郎設計 市川團十郎 市川左團次 市川九蔵 市川小團次 市川荒次郎 市川め寅等の歌舞伎役者の名前

内陣十六講とは、成田不動信仰十六講社の連合講社にして結成 1 1 0 有余年の歴史を誇り、成田山講社認証第 4 号なり。 現在約 1400 講社しかし一番多い時期は 2500 講社程あった。

講社（こうしゃ） **講中**（こうじゅう、こうちゅう）とは？

同じ神仏を信仰している人々で結成している団体。

深川公園の石造燈明台

成田山新勝寺に建立した二年後の1896年（明治29年）に、建築家佐立七次郎氏の設計により成田山東京別院深川不動堂の境内に建立された。現在は移築されて深川公園にある。



現在の石造燈明台は、関東大震災「1923年（大正12年）9月1日」により上部にあった八角の火袋が倒壊してしまい、現在の形になっている。

佐立 七次郎（さたち しちじろう） 1857年-1922年は、明治時代に活躍した建築家。

不動尊像 （2m余仁王橋右手） 五代目尾上菊五郎が奉納

仁王池（放生池）ほうじょうち 不殺生（ふせっしょう）を、戒めている。

右側は亀の形の岩 暖くなると多くの亀が岩の上にあがってくる。

仁王門の前後には何故か消防関係からの奉納物が多い



不動明王立像（五代目尾上菊五郎奉納）



仁王池右側の岩は亀の形をしている